

令和5年度 愛知県障害者相談支援体制整備事業（一般就労移行）

障害福祉サービス事業所の就労支援に関する課題・ニーズ調査 <支援実務者用>

- 調査票1－(2)：就労系障害福祉サービス（就労移行支援・就労継続支援A型・B型）事業所
支援実務者用

調査内容：支援実務者の研修実施に関するニーズの把握

本調査は、就労系障害福祉サービス事業所の就労支援に関する課題・ニーズの実態を把握する目的で行うものです。

本アンケート用紙は、質問内容の確認及び下書き用として作成しております。ご回答につきましては、以下のURLから、ご回答いただくようお願いいたします。大変お手数ですが、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

なお、ご回答いただいた内容について、今後、一般就労移行の推進に向け、愛知県の障害者就労支援に関する事業で活用させていただく可能性があります。

- 提出期限：令和5年11月30日（木）
○ 提出方法：以下のURLまたはQRコードから、調査回答フォームに入力する形でお願いいたします。

<URL>

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd8T9Q4tbASb8TI0a9Km-UKoJdsS7vKB96Y5rEsTH7pi05Spw/viewform?usp=sf_link

<QRコード>



- ご回答者様について
※支援実務者の方がお答えください。
- 本調査に関する問い合わせ先
名古屋市総合リハビリテーションセンター自立支援部就労支援課内
「一般就労相談窓口」
住所：〒462-8622 愛知県名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1-2
電話：052-835-3692
E-mail syurou-info@nagoya-rehab.or.jp

1. 回答者の概要

ご回答いただくご回答者様について入力してください。(支援実務者の方がお答えください)

問1. 回答者

- ① 事業所名：
- ② 職名：
- ③ 氏名：
- ④ 氏名のふりがな：
- ⑤ 連絡先（電話番号）：
- ⑥ 連絡先（メールアドレス）：
- ⑦ 障害者支援及び障害者の就労支援の経験年数を入力してください。
障害者支援： _____ 年 障害者の就労支援： _____ 年

問2. 主に従事している障害福祉サービスの事業を選択してください。

- ・生活介護 ・自立訓練 ・就労移行支援事業 ・就労継続支援事業A型
- ・就労継続支援事業B型 ・就労定着支援事業

2. 就労支援に関する研修方法について

問3. 研修の開催方法や時間帯について、以下の質問にお答えください。

(3-1) 研修の開催形式について、希望を選択してください。

(優先順位の高いもの2つまで回答可)

- ・会場集合によるリアル開催 ・オンラインによるリアル開催 ・オンライン録画視聴
- ・資料配布（自主学習） ・個別研修（現地訪問等）
- ・その他（自由記述）（ _____ ）

(3-2) 研修の時間帯<会場集合・対面形式>について、希望を選択してください。

(優先順位の高いもの2つまで回答可)

- ・早朝（7:00～9:00 頃） ・午前中早め（9:00～10:30） ・午前中遅め（10:30～12:00）
- ・昼（12:00～13:00） ・午後早め（13:00～15:00） ・午後遅め（15:00～17:00）
- ・夕方（17:00～18:30） ・夜（18:30～20:00）
- ・その他（自由記述）（ _____ ）

(3-3) 研修の時間帯<オンライン方式>について、希望を選択してください。

(優先順位の高いもの2つまで回答可)

- ・早朝（7:00～9:00 頃） ・午前中早め（9:00～10:30） ・午前中遅め（10:30～12:00）
- ・昼（12:00～13:00） ・午後早め（13:00～15:00） ・午後遅め（15:00～17:00）
- ・夕方（17:00～18:30） ・夜（18:30～20:00）
- ・その他（自由記述）（ _____ ）

(3-4) 1日の研修時間<会場集合・対面形式>について、希望を選択してください。

(優先順位の高いもの2つまで回答可)

- ・30分以上1時間未満
- ・1時間以上2時間未満
- ・2時間以上3時間未満
- ・3時間以上～半日
- ・終日(1日)

(3-5) 1日の研修時間<オンライン方式>について、希望を選択してください。

(優先順位の高いもの2つまで回答可)

- ・30分以上1時間未満
- ・1時間以上2時間未満
- ・2時間以上3時間未満
- ・3時間以上～半日
- ・終日(1日)

(3-6) 研修スタイル<会場集合・対面形式>について、参加したいと思うものを選択してください。

(複数回答可)

- ・講義形式
- ・参加者による情報交換
- ・事例の共有
- ・ワークショップ形式による技法習得
- ・グループによる事例検討
- ・個別対応による事例検討
- ・その他(自由記述)()

(3-7) 研修スタイル<オンライン方式>について、参加したいと思うものを選択してください。

(複数回答可)

- ・講義形式
- ・参加者による情報交換
- ・事例の共有
- ・ワークショップ形式による技法習得
- ・グループによる事例検討
- ・個別対応による事例検討
- ・その他(自由記述)()

(3-8) 研修方法全般について、ご意見があれば、入力をお願いいたします。

(自由記述)

問4. これまで受講して、良かった就労支援に関わる研修の内容や講師等がございましたら入力してください。

(自由記述)

3. 就労支援に関する研修内容について

問5. ご自身が研修を受講するにあたって、下記の研修項目の必要度について、あてはまるものを選択してください

科目	内容	必要度 < 5 (高い) ~ 1 (低い) >
①就労支援の理念・目的、障害者雇用の現状と障害者雇用・福祉施策 <80分>	<ul style="list-style-type: none"> ○就労支援の理念と目的(支援者としての共通した目的、福祉的就労と一般就労) ○障害者福祉施策(就労系障害福祉サービス)の体系や概要 ○国の障害者雇用施策の体系や各種制度 ○国の障害者雇用の状況 ○雇用施策と福祉施策との連携(福祉・教育・医療から雇用への流れ) ○就労支援の基本的な考え方(働くことの意義の理解、就労支援の視点、支援者の役割と資質、企業の視点の理解) 	5・4・3・2・1
②就労支援のプロセスⅠ(インターク～職業準備性の向上のための支援) <50分>	<ul style="list-style-type: none"> ○就労支援のプロセスと手法(支援の基本的姿勢、アセスメントから一般就労への移行の過程) ○インターク、アセスメント、プランニング ○職業準備性の考え方、職業準備性の向上のための支援 	5・4・3・2・1
③就労支援のプロセスⅡ(求職活動支援～定着支援) <50分>	<ul style="list-style-type: none"> ○就職のための支援(ハローワークの活用、企業開拓、企業へのアプローチ等) ○職場定着・雇用継続のための支援(障害者・企業双方への支援、実施方法、留意事項、福祉施策の活用や連携) ○加齢等に伴う雇用から福祉への移行 	5・4・3・2・1
④就労支援機関の役割と連携 <60分>	<ul style="list-style-type: none"> ○就労支援を実施している機関の役割と業務内容(ハローワーク、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、就労系障害福祉サービス(就労移行支援事業所等)、医療機関、教育機関等) ○就労支援ネットワークについて(ネットワークの重要性、ネットワークの構造・構築の手順等) 	5・4・3・2・1
⑤障害特性と職業的課題Ⅰ(身体障害、高次脳機能障害、難病) <60分>	<ul style="list-style-type: none"> ○身体障害・高次脳機能障害・難病の職業的課題、特性に即した支援方法、留意事項、合理的配慮の事例 	5・4・3・2・1
⑥障害特性と職業的課題Ⅱ(知的障害、発達障害) <60分>	<ul style="list-style-type: none"> ○知的障害・発達障害の職業的課題、特性に即した支援方法、留意事項、合理的配慮の事例 	5・4・3・2・1
⑦障害特性と職業的課題Ⅲ(精神障害) <60分>	<ul style="list-style-type: none"> ○精神障害の職業的課題、特性に即した支援方法、留意事項、合理的配慮の事例 	5・4・3・2・1

科目	内容	必要度 < 5 (高い) ~ 1 (低い) >
⑧労働関係法規の基礎知識<60分>	<ul style="list-style-type: none"> ○労働契約上の留意点 (労働契約の締結、労働時間、休憩、休日、賃金、解雇等) ○法律上企業等に加入が義務づけられている労働保険・社会保険 	5・4・3・2・1
⑨企業に対する支援の基礎<60分>	<ul style="list-style-type: none"> ○企業で働くとは ○企業を支援することの重要性 ○障害者雇用をめぐる企業を取り巻く状況(障害者の差別禁止・合理的配慮の提供義務等) ○企業支援のプロセス及び支援手法 (企業情報・ニーズの把握、企業内での理解促進への支援、職務の切り出し、地域資源の活用) ○企業支援の留意点 (企業との信頼関係の構築、企業担当者のメンタルヘルスに関する支援等) 	5・4・3・2・1
⑩ケースマネジメントと職場定着のための生活支援・家族支援<60分>	<ul style="list-style-type: none"> ○就労支援におけるケースマネジメントの重要性 ○生活支援・家族支援の進め方 (支援方法、対応例) ○生活支援・家族支援における企業と支援機関の役割分担と連携 ○ライフステージや生活の変化に対応した支援の必要性 	5・4・3・2・1
⑪アセスメントの基礎<100分>	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相談を行う上での基本的態度や傾聴等の相談技法等 ○アセスメントの目的と心構え ○実施方法と留意事項 ○結果の分析ポイントと活用の仕方 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループワーク ○モデル事例に即して、アセスメントにおける対象者への聞き取りや観察の内容について検討。また、把握した情報に基づき、対象者の就労に向けた課題や支援のポイント・方法について整理 	5・4・3・2・1
⑫企業における障害者雇用の実際<60分>	<ul style="list-style-type: none"> ○企業の障害者雇用の担当者からの講義 <ul style="list-style-type: none"> ・企業における障害者雇用の考え方や実際 (障害者である社員が従事している職務の内容、雇用管理の方法、職場内支援体制、合理的配慮の内容等) ・企業が求める人材 (採用時に重視すること、雇用継続に向けて重視すること等) ・支援者に求めること 	5・4・3・2・1

科目	内容	必要度 < 5 (高い) ~ 1 (低い) >
⑬地域における就労支援の取組<90分>	【意見交換】 ○グループワーク ①受講者の所属機関における各種支援の取組 ②関係機関との連携、ネットワークの活用状況 ・①②に関連するテーマについて意見交換 【ケーススタディ】 ○グループワーク ○モデル事例の内容に基づき、対象者や企業、家族への支援の内容や関係機関との連携などについて検討	5・4・3・2・1
⑭オンライン形式での講義の振り返り<50分>	【講義】 ○オンライン形式の講義のポイントの復習 ○オンライン形式の講義の質疑応答	5・4・3・2・1

※講義内容等や<>内の時間数については、令和3年12月10日に、国において開催された「雇用と福祉の分野横断的な基礎的知識・スキルを付与する研修の構築に関する作業部会における議論の整理」の基礎的研修カリキュラムイメージ（案）から記載

問6. 問5の研修項目以外に受講したい研修内容があれば、入力してください。

（自由記述）

4. 就労支援スキル向上について

問7. ご自身の就労支援スキルの向上に向けて、必要だと考えることについて選択してください。

（複数回答可）

- ・事業所や法人等の内部での研修制度
- ・事業所内の先輩職員やその他支援機関のスーパーバイザー等の経験者による助言や指導
- ・ケース会議等での多様な支援者等との事例検討
- ・日常の支援での失敗体験や成功体験の積み重ね
- ・外部機関による研修・セミナー等の受講（障害者職業総合センター、地域障害者職業センター、愛知県による就労支援に関する研修等）
- ・実践で使えるマニュアルや事例集等（障害者職業総合センターの研究成果やマニュアル、専門雑誌の論文や記事等）

問8. ご自身の就労支援スキルの向上に向けて、その他のご意見があれば、入力してください。

(自由記述)【例】「業務時間内に研修へ参加できる仕組みが欲しい」「自己研鑽のために研修したら金銭的な補助が出て欲しい」「資格取得や研修修了すると資格手当が出て欲しい」「職場内での OJT を充実して欲しい」「スキルの向上の方法が分からない」等

5. その他

問9. 一般就労移行の推進に向けて、課題やご意見等があれば、入力してください。

(自由記述)